

発行された冊子(後ろ)とDVD「もういいかい」映画製作委員会提供



回復者の現状 冊子で

ハンセン病問題提起も

国によるハンセン病隔離政策の実態を、同病からの回復者の証言から追った記録映画「もういいかい」ハンセン病と三つの法律」の製作スタッフが、映画完成後の現状を紹介する冊子を出した。「ハンセン病問題と私たち」(発行アトリエエム、700円、税別)で、DVD化された映画のテキストにもなっている。

映画を製作した西宮市在住の映画プロデューサー梶久森典妙さん(66)らが改めて関係者から寄稿してもらった。回復者としてくくる

「いちようの会」の宮良正吉会長は「介護が必要なのに病歴がわかることを恐れ、介護サービスが受けられない」ため、「再び、ハンセン病療養所に入所する

しかない状況に追い込まれている」と説明。回復者の高齢化に伴う新たな問題を提起した。

また、長野県の中学校教諭の新井孝之さんは、映画などを使ってハンセン病問題を考える授業を3年間続けた体験を報告。「生きながら差別され続け、たとえ遺骨になっても『もう差別されるのはいいかい』と問いかける方々の悲しさが、生徒たちにも伝わったと思う」と話す。

冊子やDVDの希望者は「もういいかい」映画製作委員会(078・3333・8690)まで。

(三嶋伸一)